

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	中国人元日本留学生の定着・帰国の選択と影響要因に関する研究
Title(English)	
著者(和文)	トウセキカ
Author(English)	Sekika Tou
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10603号, 授与年月日:2017年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:佐藤 由利子,村山 武彦,吉川 邦夫,木内 豪,錦澤 滋雄,白土 悟
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10603号, Conferred date:2017/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	要約
Type(English)	Outline

論文の要約

THESIS SUMMARY

専攻： 環境理工学創造 専攻
Department of
学生氏名： 竇 碩華
Student's Name

申請学位(専攻分野)： 博士 (学術)
Academic Degree Requested Doctor of
指導教員(主)： 佐藤 由利子 准教授
Academic Advisor(main)
指導教員(副)： 村山 武彦 教授
Academic Advisor(sub)

本論文は「中国人元日本留学生の定着・帰国の選択と影響要因に関する研究」と題し、全6章からなる。

第1章「研究の背景と目的」では、日本政府による就職支援策にもかかわらず、帰国就職や日本で一定期間就労後母国へ転職する留学生が多いという点に着目する。また、元留学生に関する先行研究では、日本で就職した留学生の最大グループである中国人元留学生を他国出身者と比較した研究、日本と中国で働く中国人元留学生を横断的に分析した研究が少ないことを指摘する。そのうえで、中国人元留学生と他国元留学生の比較、また、中国人元留学生のうち理工系と文系の者の比較、日本と中国の主な職場勤務者の比較を通じ、中国人留学生の定着・帰国の選択に影響を与える要因を明らかにし、日本定着促進に向けた示唆を得るという研究の目的を示す。

第2章「研究の枠組み」では、プッシュ・プル理論に基づき、中国人元留学生の卒業時の就職先選定理由、転職・帰国理由、職場環境の評価、生活環境の満足度、将来計画について、他国出身元留学生との比較、日本と中国の主な職場別、理工系・文系別の分析を通じ、彼らの進路選択の特徴と影響要因を明らかにするという本研究の枠組みを示している。

第3章「日本で学んだ留学生の進路状況」では、日本における留学生就職支援政策と留学生の就職状況、中国の海外留学人材呼び戻し政策と留学からの帰国者の進路状況を概観する。日本で就職した留学生のうち、中国人留学生の就職者の割合は、他国留学生よりも高いこと、在留資格別では「人文知識・国際業務」の在留資格者の割合が高く、「技術」の在留資格者の割合が低いことを示した。また、中国の海外留学呼び戻し政策は、理工系の研究者、技術者を中心として帰国を促しており、日本からの帰国者は博士号を取得した者が相対的に多いことを示した。

第4章「他国と比較した中国人元留学生の進路選択の特徴と理由に関する分析」では、日本で就職した元留学生339名の質問紙調査の回答を、中国人元留学生と台湾・他国出身者間で比較し、さらに中国人元留学生と企業関係者への聞き取り調査によって、中国人元留学生の進路選択の特徴と理由を分析した。その結果、中国人元留学生は台湾・他国出身者より、就職先を選ぶ際に将来母国で働けることなどの「母国」要因を重視し、外国人としての配慮を受けることが少ないと感じる者、昇進に時間がかかると感じる者が多く、将来計画においてより強い帰国希望を持っていることが明らかになった。また、職場環境と職場適正の回帰分析から、中国人元留学生は、台湾・他国出身者より、要求水準の高い仕事や責任範囲の曖昧な仕事にも前向きな姿勢が見られ、日本企業への適応性が高いと考えられることを示した。

第5章「中国人元留学生の定着・帰国選択の特徴と影響要因に関する分析」では、日本と中国で就職した中国人元留学生322名の質問紙調査回答と、日本と中国で行った元留学生と企業関係者への聞き取り調査に基づき、就職先選定理由、転職・帰国理由、職場環境の評価、生活環境の満足度、将来

計画を、主な職場別、理工系・文系別に比較し、進路選択の特徴と影響要因をグループ別に分析した。その結果、「キャリア形成/能力向上」が、理工系でも文系でも、就職した国に関わらず、最も重視した要因の1つであり、理工系の者が日本で転職する時に最も重視した要因となっていること、「能力・専門の活用」と「昇進の見通し」は、中国で就職した者が重視する要因であること、将来帰国を希望する理由として、親の面倒や中国での仕事の将来性、専門性の活用、子供の教育が上位に挙げられることを示した。また、日本企業勤務者は「昇進の遅さ」と「やりたい仕事と実際の業務の不一致」に不満を持ち、日本の教育・研究機関勤務者も、職場の総合満足度は高いが、昇進に不満を持つ傾向を明らかにした。

第6章「結論」では、それまでの分析結果に基づき、中国人元留学生の定着・帰国のプッシュ・プル要因について総合的考察を行い、日本定着を促進するためには、能力向上の機会、中国関係の仕事に就く機会、外国人としての配慮を受ける機会を増加し、日本企業における昇進システムやジェネラリスト養成の利点に関する説明が必要であるという示唆を導いた。